

耐熱用手袋

シリコンは200℃の熱を加えても、樹脂が溶ける心配がありません。ダイローブの耐熱用手袋はそのシリコンをアウター手袋に使用し、インナー手袋は断熱素材を使用して熱の伝わりを抑えた二重構造の手袋です。また、手に触れる面は当社独自の特殊加工を施しているため、発塵しにくい構造となっています。そして、完全防水(無縫製・無溶着)なので浸水の心配はありません。



注意

※熱が伝わりにくい構造となっていますが、重さ1.0kgの鉄塊を加熱し、H200を着用して強く握った場合100℃の時約140秒、150℃の時約20秒、200℃の時約15秒で熱く感じます(当社調べ)。ただし、体感温度には個人差があるため、これはあくまでも目安であり『保証値』ではありません。

※熱水(100℃以下)の場合は防寒用(P.7~8)で十分使用できます。※溶接・消防などの荒い作業には適しません。

試験

燃焼ガス試験(JIS K 2541)

800±50℃で燃焼させる試験です。ほとんどガスが検出されていことがわかります。H200の窒素酸化物の値についてはシリコンではなく、インナー素材から発生したものとされます。

試験日: 1999年7月16日(単位: mg/g)

試験項目	試料名	H200 (耐熱用)	H202 (耐溶剤用)	下限値
フッ化水素(HF)		不検出	不検出	0.1
塩化水素(HCl)		不検出	不検出	0.5
臭化水素(HBr)		不検出	不検出	0.5
シアン化水素(HCN)		0.012	不検出	0.005
硫酸酸化物(SO _x) (SO ₂ 換算)		不検出	不検出	0.5
窒素酸化物(NO _x) (NO ₂ 換算)		4.6	不検出	0.5

試験依頼先: 財化学物質評価研究機構

分析試験

100℃以上の環境で様々な物質が検出されるかを調べる試験です。材質や溶出物の分析結果は特に問題なく、食品分野に適合していることを意味しています。ただし、食品分野向けに造られたものではありません。

試験日: 2005年9月22日

試験項目	試料名	H200	H201	H202
		耐熱用	耐溶剤用	
材質試験	カドミウム及び鉛	限度以下	限度以下	適
溶出試験	フェノール	適	適	適
	ホルムアルデヒド	適	適	適
	亜鉛	適	適	適
	重金属	適	適	適
	蒸発残留物(水)	適(5ppm以下)	適(5ppm以下)	適(5ppm以下)

試験依頼先: 財日本食品分析センター

食品、添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号)の第3のDの3ゴム製の器具又は容器包装に準じて試験した。

ダイローブ H200シリーズ

発塵抑制素材のインナーを使用した耐熱シリーズ

食品衛生法適合



H200

サイズ	S	L	LL
長さ(mm)	270		
裏地	化繊		
厚み(mm)	2.95(裏地含)		
インナー	断熱布		
色	白		
入数	25双(1双×25)		
希望小売価格	¥10,500/双		



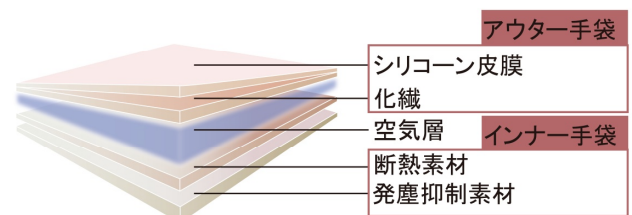
H200の40cmタイプ

H200-40

サイズ	L	LL
長さ(mm)	400	
裏地	化繊	
厚み(mm)	2.95(裏地含)	
インナー	断熱布	
色	白	
入数	20双	
希望小売価格	¥19,000/双	

構造

二重構造



H200の55cmタイプ

H200-55

サイズ	L
長さ(mm)	550
袖口外径(mm)	150
裏地	化繊
厚み(mm)	2.95(裏地含)
インナー	断熱布
色	白
入数	20双
希望小売価格	¥27,300/双